

# 滋賀県病院協会報

## 新年のご挨拶



一般社団法人  
滋賀県病院協会  
会長 三木 恒治

### どうする変革の時代 令和8年度診療報酬改定、 働き方改革、そして医療DX

あけましておめでとうございます。会員各位におかれましては、健やかに令和8年の新春をお迎えのこと、心よりお慶び申し上げます。恒例ではありますが一言新年のご挨拶を申し上げます。

日本の経済社会情勢は、積年のコストカット型経済から脱却し、持続的な物価高騰・賃金上昇の新たなステージへと移行しつつあります。しかし、公定価格の下でサービスを提供する医療分野は、この経済変化への即応的な対応が難しく、依然として厳しい状況に直面しております。この医療機関を取り巻く厳しい状況に対応すべく病院経営は転換期に差し掛かっているといっても過言ではありません。

近年の調査結果からも多くの病院では、医療収益は増加しているものの、給与費、医療材料費、光



発行所  
滋賀県病院協会  
大津市京町四丁目3-28  
(滋賀県厚生会館)  
TEL 077-525-7525  
http://sbk.co-site.jp/  
発行人 会長 三木 恒治

した。主な支援策としては、賃上げ・物価上昇に対する支援が合計5,341億円(賃上げ1,536億円、物価上昇3,805億円)の規模で実施されます。病院に対しては、1床あたり賃金分で8万4000円、物価分で11万1000円の緊急補助が行われ、別に救急医療を担う病院には救急加算が設けられます。

また、医療DX推進を通じた生産性向上に対する支援として200億円が充たされ、業務効率化推進委員会(仮称)を設置する病院に対し、1病院あたり1億円を上限としてICT機器等の導入・活用が支援されます。その他、病床数の適正化を進める医療機関への支援(3,490億円)や、資金繰り支援のための福祉医療機構による優遇融

資や資本性劣後ローンの創設(804億円)も含まれております。

この緊急支援策に加え、本年の令和8年度診療報酬改定への期待は極めて大きなものとなります。政府の「骨太方針2025」では、社会保障関係費予算の増加分について高齡化による増加分に

加え、経済・物価動向等を踏まえた増加分を加算するという、抜本的な見直しが行われました。これは、賃金・物価の上昇に応じた公定価格への適切な反映を求め、医療機関の経営安定に確実につながる「転換点」となることを強く期待いたします。

## 私の主張



### 抗アミロイドβ抗体薬から思うこと

公益財団法人青樹会 滋賀八幡病院 院長

濱名 優 (滋賀県病院協会 理事)

アルツハイマー病の新しい治療薬として「抗アミロイドβ抗体薬」が注目されています。この薬は、脳に蓄積するアミロイドβというたんぱく質

を減らすことで、認知機能低下速度を抑える効果があるとされています。長年根本的な治療が難しかった認知症に対し、新たな希望として期待が寄

ります。進行を止めたり、失われた認知機能を回復させたりするわけではなく、臨床的な改善効果がどの程度持続するかについて、引き続き検証が

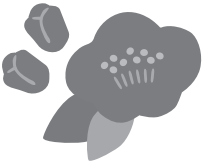
必要です。また、副作用として脳のむくみや出血などが生じる可能性があり、限定的との指摘もあ

ります。適応となる患者や専門医によるリスク管理が重要になります。さらに費用面の負担も軽視できません。日本では薬価だけで年間約

300万円とされ、検査や通院費を含めると経済的な負担は一層大きくな

ります。適応となる患者や専門医によるリスク管理が重要になります。さらに費用面の負担も軽視できません。日本では薬価だけで年間約

300万円とされ、検査や通院費を含めると経済的な負担は一層大きくな



め、より少ない人手でも質の高い医療を提供できる環境整備を進める必要があります。

高齡化が進む2040年を見据えた「新たな地域医療構想」という、中長期的な医療提供体制の将来ビジョンが提示されています。これは、入院医療の機能分化・連携にとどまらず、外来、在宅医療・介護連携までを包含する「治し支える」総合的な改革であります。

この大きな変革期において、滋賀県の医療を支え、発展させていくという共通の使命のもと、病院協会として会員各位とともに、これらの諸問題に鋭意取り組み、地域に信頼される医療提供体制の構築に尽力していきたいと考えておりますので何卒よろしくお願いいたします。

また、年末年始においても、県民のために仕事をしてくださっている医療関係者の皆様方に、深く感謝申し上げます。

昨年は戦後80年の節目に際し、友好県省協定を締結する中国・湖南省と共に平和祈念行事を行うなど、恒久平和を願い、様々な活動に取り組みました。

また、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」では、全国から選手団や

の影響が懸念されます。医療経済の観点では、「費用対効果」が重視されます。抗アミロイドβ抗体薬においては、「高額な治療で認知症の進行を遅らせること」によって、医療・介護費用がどれほど抑制できるのかという点になります。現状では費用に対して得られる経済効果は限定的とする評価もあり、各国とも慎重な対応をとっています。確かに認知症の進行を

## 年頭挨拶

みんなでともにいきる「健康しが」

「暮らし」や「社会」のあり方をリ・デザイン



滋賀県知事

三日月 大造

あけましておめでとうございます。

新しい年が皆様にとって、健康と幸せに満ちた素晴らしい一年となりま

すことを心からお祈り申し上げます。

また、年末年始においても、県民のために仕事をしてくださっている医療関係者の皆様方に、深く感謝申し上げます。

昨年は戦後80年の節目に際し、友好県省協定を締結する中国・湖南省と共に平和祈念行事を行うなど、恒久平和を願い、様々な活動に取り組みました。

また、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」では、全国から選手団や

の影響が懸念されます。医療経済の観点では、「費用対効果」が重視されます。抗アミロイドβ抗体薬においては、「高額な治療で認知症の進行を遅らせること」によって、医療・介護費用がどれほど抑制できるのかという点になります。現状では費用に対して得られる経済効果は限定的とする評価もあり、各国とも慎重な対応をとっています。確かに認知症の進行を

300万円とされ、検査や通院費を含めると経済的な負担は一層大きくな

ります。適応となる患者や専門医によるリスク管理が重要になります。さらに費用面の負担も軽視できません。日本では薬価だけで年間約

300万円とされ、検査や通院費を含めると経済的な負担は一層大きくな

をリ・デザインしていく必要があると考えています。今年はその第一歩と位置づけ、変化の兆しを敏感に察知し、先を見据えた的確な行動を実行してまいります。

今年は、千十二支では丙午(ひのえ・うま)。「丙」は明るく燃え盛る太陽を表し、「午」は馬を意味し、力強さや躍動前進を象徴します。この年のように、滋賀が力強く飛躍し、活力に満ちた一年となるよう願い、新たな挑戦を恐れず、地域の発展と未来の礎を築いてまいります。県民の皆様と手を携え、一人ひとり、すべての人が輝き、みんなでもともにいきる「健康しが」をつくるため、全力を尽くします。一緒に頑張りましょう！

一方、現在、世界も社会も、そして未来も不安や不穏、不確実な状況が続いています。そのような状況の中でも、一人より二人、隣に人がいること、寄り添うことで力が湧きます。一緒にやればいろいろな力を生み出す「連帯」を大事にしながら、みんなで「暮らし」や「社会」のあり方

をリ・デザインしていく必要があると考えています。今年はその第一歩と位置づけ、変化の兆しを敏感に察知し、先を見据えた的確な行動を実行してまいります。

今年は、千十二支では丙午(ひのえ・うま)。「丙」は明るく燃え盛る太陽を表し、「午」は馬を意味し、力強さや躍動前進を象徴します。この年のように、滋賀が力強く飛躍し、活力に満ちた一年となるよう願い、新たな挑戦を恐れず、地域の発展と未来の礎を築いてまいります。県民の皆様と手を携え、一人ひとり、すべての人が輝き、みんなでもともにいきる「健康しが」をつくるため、全力を尽くします。一緒に頑張りましょう！

一方、現在、世界も社会も、そして未来も不安や不穏、不確実な状況が続いています。そのような状況の中でも、一人より二人、隣に人がいること、寄り添うことで力が湧きます。一緒にやればいろいろな力を生み出す「連帯」を大事にしながら、みんなで「暮らし」や「社会」のあり方

をリ・デザインしていく必要があると考えています。今年はその第一歩と位置づけ、変化の兆しを敏感に察知し、先を見据えた的確な行動を実行してまいります。

今年は、千十二支では丙午(ひのえ・うま)。「丙」は明るく燃え盛る太陽を表し、「午」は馬を意味し、力強さや躍動前進を象徴します。この年のように、滋賀が力強く飛躍し、活力に満ちた一年となるよう願い、新たな挑戦を恐れず、地域の発展と未来の礎を築いてまいります。県民の皆様と手を携え、一人ひとり、すべての人が輝き、みんなでもともにいきる「健康しが」をつくるため、全力を尽くします。一緒に頑張りましょう！

一方、現在、世界も社会も、そして未来も不安や不穏、不確実な状況が続いています。そのような状況の中でも、一人より二人、隣に人がいること、寄り添うことで力が湧きます。一緒にやればいろいろな力を生み出す「連帯」を大事にしながら、みんなで「暮らし」や「社会」のあり方

をリ・デザインしていく必要があると考えています。今年はその第一歩と位置づけ、変化の兆しを敏感に察知し、先を見据えた的確な行動を実行してまいります。

今年は、千十二支では丙午(ひのえ・うま)。「丙」は明るく燃え盛る太陽を表し、「午」は馬を意味し、力強さや躍動前進を象徴します。この年のように、滋賀が力強く飛躍し、活力に満ちた一年となるよう願い、新たな挑戦を恐れず、地域の発展と未来の礎を築いてまいります。県民の皆様と手を携え、一人ひとり、すべての人が輝き、みんなでもともにいきる「健康しが」をつくるため、全力を尽くします。一緒に頑張りましょう！

一方、現在、世界も社会も、そして未来も不安や不穏、不確実な状況が続いています。そのような状況の中でも、一人より二人、隣に人がいること、寄り添うことで力が湧きます。一緒にやればいろいろな力を生み出す「連帯」を大事にしながら、みんなで「暮らし」や「社会」のあり方

をリ・デザインしていく必要があると考えています。今年はその第一歩と位置づけ、変化の兆しを敏感に察知し、先を見据えた的確な行動を実行してまいります。

今年は、千十二支では丙午(ひのえ・うま)。「丙」は明るく燃え盛る太陽を表し、「午」は馬を意味し、力強さや躍動前進を象徴します。この年のように、滋賀が力強く飛躍し、活力に満ちた一年となるよう願い、新たな挑戦を恐れず、地域の発展と未来の礎を築いてまいります。県民の皆様と手を携え、一人ひとり、すべての人が輝き、みんなでもともにいきる「健康しが」をつくるため、全力を尽くします。一緒に頑張りましょう！

一方、現在、世界も社会も、そして未来も不安や不穏、不確実な状況が続いています。そのような状況の中でも、一人より二人、隣に人がいること、寄り添うことで力が湧きます。一緒にやればいろいろな力を生み出す「連帯」を大事にしながら、みんなで「暮らし」や「社会」のあり方





# 年頭に思う

(順不同)



副会長  
来見良誠

新年あけましておめでとございます。令和8年を迎えるにあたり一言新年のご挨拶を申し上げます。昨年は大阪で関西万博が開催され、予想を上回る入場者があり、その経済効果は3兆円と言われています。この影響かどうかははっきりしないのですが、①人件費の増大、②材料費の急増、③食糧費の値上がり、④米価の倍増などがあり、病院経営に大きく影響する事態が発生しています。さて、技能の伝承とい



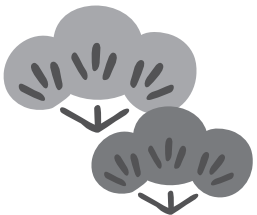
副会長  
楠井 隆

明けましておめでとうございます。21世紀も最初の四半世紀が終わり次の四半世紀に入りました。最初の25年の大部分は低成長、デフレの「失われた30年」そのものでしたが、(国内では)2020年からのコロナ禍を経て、ここ2〜3年はインフレの時代に転じてきています。公定価格制である医療・介護の現場では人件費や材料費、光熱費の値上がりを価格転嫁もできず、非常に苦し

う点に着目すると、病院では、医療職の技能伝承・医療技術職の技能伝承は日ごろ意識しているのですが、事務職の技能伝承については、派遣や委託という手法があるため、安易に頼ってしまう傾向があります。診療報酬を熟知し、適正な請求事務が行える職員を育成することが病院の安定経営のために最も重要な要素の一つであると再認識いたしました。

本年も医療環境が改善するよう病院協会の運営に尽力したいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。  
(地域医療機能推進機構滋賀病院長)

す。ほかにも県内の病院が一丸となって取り組むとよい問題は沢山あります。私も微力ながらお手伝いできればと思っています。新しい四半世紀が我が国にとっても、我が国の医療にとってもよい25年になることを切に願います。  
(長浜赤十字病院長)



理事  
石田展弥

滋賀県病院協会会員病院の皆様、あけましておめでとございます。昨年は首相の威勢のいい発言が国内外に緊張を生じさせたようです。その勢いが医療にもおよんで積極的に対応していただけるのではないかとこの期待があるのは事実です。しかし医療受給者である国民にはそれほど熱量はなく、多くの病院経営が赤字であることに



理事  
青木治亮

も在籍している。一方で、お国柄が異なる人への配慮、如何すれば良いのか悩ましいところ。自らの経験から、視線は外さない・無駄な相槌はしない・多少の世間話は許容する等々…。最も斟酌すべきは否定の表現

就労人口が減少している昨今、外国人労働者が230万人を超えた。こよなく愛する江戸の「ゆで太郎」も茹でるは異国の。小職の法人でも5ヶ国20余人、中には看護師資格を取得した猛者が



理事  
高橋雅士

新年明けましておめでとございます。昨年は政局が大きく動き、自民党と日本維新の会の連立合意がなされ、高市政権が誕生しました。新政権は現在の医療機関の窮状をある程度理解しているものと推測します

の動向について注視しなければならぬものも多々あります。今年は診療報酬改定の年ですが、かかりつけ医療機能報告が今月からスタートするなど、厚労省や財務省主導の改革が加速しているように見えます。かかりつけ医の方針は、我が国の医療のフリアクセスを量重視から質重視に根本的に変える目的があるようですが、併せてそこには外



理事  
松岡俊樹

新年あけましておめでとございます。昨年は厳しい状況ばかりが浮かび上がり、何とかしようともがく日々が続きました。物価高に人出不足。身近なものの値段が上がるニュースに、病院で使われているすべてのものの値上がりが追いつきませんでした。コロナウイルスも消え去ることはなく、高齢者が多くを占める当院では、いまでもある危機と認識されています。様々な要因から医療の持続可能性が危うくなっていることが、社会や政治に少し伝わり、やっと変化が起こりそうにもみえます。毎年願うことではありますが、特に今年は昨年より少しは



理事  
五月女隆男

新年を迎え、本年も例年同様にご挨拶できますことをうれしく感じています。高市新内閣になり各分野での経済対策が着々と進んでいるようです。医療福祉分野も最重要課題

とされており、春にはこれまで以上の規模の診療報酬改定が期待されることです。ベッド数削減案も出るなか、在宅医療の重要性は再認識されており、当院の方向性を再認識するに至っております。  
(ヴォーリス記念病院長)



理事  
田中俊宏

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様におかれましては良い一年となりますように、心よりお祈り申し上げます。年頭ですので明るい(であらう)未来を語りたいと



理事  
仲 成幸

新年明けましておめでとございます。本年の干支は丙午による「丙午」で、いずれも陽の火の力を宿し、勢いと熱量に満ちた一年になるとされています。現場では、生き馬の目を抜くほどの忙しさの中でも、職員一同が馬車馬の如く「働いて×5」力を尽くしております。しかしながら、当局の対応は、医療現場の声に馬の耳に念仏、馬耳東風で、施策は牛の歩

(日野記念病院長)

みのごく遅々として進みません。今年こそは、駿馬の如く速やかで賢明な政策が実行されることを願ってやみません。当院は本年、開院40周年を迎えます。皆さまへの深い感謝を胸に、質の高い医療の提供と業務の生産性向上に努め、未来への歩みを着実に進めてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

思います。全国にある国立大学法人の附属病院では、経営状況が芳しくなく、多くの大学病院は赤字に苦しんでいます。昔から陰陽思想では、「陰極まりて陽となる」と言

われています。ほぼすべての医療機関が全滅に近くなっている新しい未来が見えてくるのかもしれないね。今年が明るい未来の第一歩でありますように。  
(滋賀医科大学医学部附属病院長)







理事  
辻川 知之

皆さま、明けましておめでとうございます。  
2026年を迎えるにあたり、最も気掛かりなのは診療報酬改定です。公的病院の経営悪化が報じられています。改善ばかりが前面に出る

と、本来の「患者のための医療」がゆがむ恐れがあります。器材や薬剤の適正使用はもちろん必要ですが、処置や手術の点数を気にしながら診療する状況は「医は算術」と言われかねず、望ましい



理事  
小川 修

新年あけましておめでとうございます。この新年会報が出るころには、すでに新春恒例の箱根駅伝は終わっていると思います。今年もいつものように青山学院大学が優勝を飾ったのでしょうか。

駅伝という競技は、各

区間を任された選手が、その区間の距離や自分の



理事  
白山 武司

今年の干支は丙午（ひ

のえうま）。井原西鶴の浮世草子から広まったそうだが、この年生まれの女性は気性が荒く男性を食い尽くすとされ、前回1966年には産児制限、25%もの大幅な出生低下がみられた。信頼できる統計では、実は顕著だったのはこの年だけ



姿ではありません。



理事  
高折 恭一

あけましておめでとうございます。長浜市に勤務するものとして、昨年の一番嬉しかったニュースは、長浜市びわ町出身の坂口志文先生が、制御性T細胞の研究業績によりノーベル生理学・医学賞を受賞されたことです。

坂口先生はインタビュ

で、「受賞によって社会に医学研究の重要性を認識してもらい、基礎研究への支援が大切と伝えたい」と述べておられます。

一方で、これからの日本の医学研究は、厳しい試練にさらされることにな

りそうです。急速に進む高齢化と人口構造の変化、医師の働き方改革、大学の増強に期待をしているところですが、現役世代の負担を増やすことはで

きないなどの制約があるなかで、どこまで上げてくれるのかというのが、

正直なところです。病院経営という観点からは、引き続き前途多難な一年

となりそうですが、地域における病院の本来の使命をまっとうするという想いを胸に頑張りたいと思います。



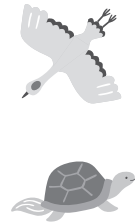
理事  
日野 明彦

明けましておめでとうございます。大津に着任して4度目の新年を迎えました。未曾有のパンデミックはようやく落ち着いてきましたが、地球規模の気候変動と未曾有の超高齢化社会が到来して

います。その一方で、医療は専門化と細分化がますます加速して、さまざま分野の専門家をそろえ、あらゆる疾患に対応

できる「総合病院」はもはやありません。当院は地域の急性期医療を担う総合病院ですが、この

ような医療環境に単独で立ち向かうことは不可能



年度も継続することになるでしょう。病院に対する一定の政府支援はあるものの、人事院給与勧告や薬剤費・医療材料費・委託費等の諸物価高騰を十分にカバーするものではありません。診療報酬の増額に期待をしているところですが、現役世代の負担を増やすことはでき

ないなどの制約があるなかで、どこまで上げてくれるのかというのが、

正直なところです。病院経営という観点からは、引き続き前途多難な一年

となりそうですが、地域における病院の本来の使命をまっとうするという想いを胸に頑張りたいと思います。

本年も様々な課題に取り組む一年となると存じます。

（長浜市病院事業管理者・市立長浜病院院長）



理事  
野崎 和彦

新年明けましておめでとうございます。

医療経営は過去最大の危機を迎えており、全国の病院の約7割が赤字で

病院経営が危機的な状況になり、インフラとして

必要な地域医療の根幹に

関わる事態となっています。

物価や人件費などの高騰、働き方改革や医師

不足、少子化の伴う産婦

ますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしく願ひします。

（東近江総合医療センター院長）



理事  
武田 佳久

新年あけましておめでとうございます。横山君も試合に出なくて常

にどうしたらやれるのかということを考え抜いて、努力を続けてきたのだとうと想像しました。

医療情勢ますます悪化してはいますが、彼を見習って様々な手立てを講じてこの病院経営危機を

乗り越え、地域の方々が健やかな暮らしができるように病院医療を行えればと心から願っております。

本年もどうぞよろしく

お願いいたします。

（高島市民病院院長）



理事  
中野 顕

皆様、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年の干支は「午（う

ま）」です。馬は力強さと疾走感を象徴し、私

ち医療従事者にとっても

未来に向かって力強く進む象徴といえるでしょう。

特に、2026年は「丙午（ひのえうま）」の年

にあたります。丙午は、

十干と十二支の組み合わせの一つであり、古来より「午年」の中でも特に

エネルギーで変革の年とされてきました。丙

は火の性質を持ち、情熱や革新を象徴します。丙

午「はまさに新たな挑戦と変革のエネルギーに満ちており、革新的な取り組みや新しい価値観の導

（彦根市立病院院長）



理事  
足立 壮一

滋賀県病院協会の皆さま、明けましておめでとうございます。本年も引き続きのご指導のほど、よろしくお願いいたします。病院経営の厳しい中、病院長3年目の私も、日々、苦闘の毎日を通じております。その中で、昨年の数少ないうれしい出来事は、当院の初期研修医2年目のうち、半数以上が、当院の専攻医として残ってくれること、

試験受験生数が過去最高であったこと、また、当院を1位にした受験生が中間マッチング時点で、史上初めて10名を超えたこと

（滋賀県立総合病院院長兼病院長）







理事  
小椋 英司

あけましておめでとうございます。  
さて本年の干支は丙午年ですが、ちょうど60年前のこの年は東海道新幹線も動き出し、アジアで初めての東京オリンピックも成功させ、「ジャパアズナンバーワン」といわれるように、戦後の高度経済成長に向けエンジン全開の時期であったかと思えます。そして今、日本は30年前からつい最近までデフレ状態が続き低成長にもがき苦しんでいます。また我々の病院経営も国の経済状況に依存している事から、同じく大きな試練を迎えていると言えます。国力の低下、高齢化社会の到来と

少子化による生産人口の減少、また産業構造、生活環境の大変化など、今年はこのパラダイムシフトに国、国民の対応がより一層問われる年になります。当然我々の病院経営もその延長線上で適切な対応が求められています。中国のこのように、疾風知草を知る」があります。今年も病院協会の会長、副会長はじめ理事の皆様方の御指導を頂きながら、この暴風雨の様な環境にあっても、勁草になるべく会員病院一致団結、力を合わせられれば幸甚です。本年もどうぞよろしくお願い致します。  
(琵琶湖大橋病院長)



監事  
難波 江正浩

新年あけましておめでとうございます。  
公益財団法人・豊郷病院は昨年4月に創立100周年を迎えました。盛大に周年記念事業を執り行えばよかったのですが、当院も赤字経営で財政難の折からごちんまりと、世界アルツハイマー月間にちなみ「オレンジフェスティバル」と称した祭典を9月20日に開催しました。模擬店や展示ブースを設け、精神科医師に

よる認知症に関する講演や、小生を含めた滋賀医大軽音楽部OBによるジャズライブなどを催したところ患者さんや地域住民を含めて30名以上の参加を頂きました。  
今年10年目以降も当院が地域社会に貢献し存続してゆけるよう一年一年を大切に、丁寧に経営努力を続けてゆく所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。  
(豊郷病院長)



監事  
森谷 季吉

巳年から午年へ――脱皮と変化の年から、前進と躍進の年へ。  
へびは、WHOのエンブレムにも描かれているように、医療の象徴として2025年初頭の挨拶でも多く語られました。  
一方、午(うま)は、力強く未来へと駆け進むとともに、進むべき道を見極める賢さを象徴します。  
(淡海医療センター院長)

巳年から午年へ――脱皮と変化の年から、前進と躍進の年へ。  
へびは、WHOのエンブレムにも描かれているように、医療の象徴として2025年初頭の挨拶でも多く語られました。  
一方、午(うま)は、力強く未来へと駆け進むとともに、進むべき道を見極める賢さを象徴します。  
(淡海医療センター院長)

## 令和7年度 臨床研修医のための専門研修プログラム説明会に参加して



社会福祉法人恩賜財団  
済生会滋賀県病院 初期臨床研修医1年目  
村田 俊貴

この度は専門研修プログラム説明会に参加させていただき、誠にありがとうございました。滋賀県で専攻医を取得するにあたり必要となる病院の診療科ごとの情報を具体的に知ることができ、大変有意義な時間となりました。また、専攻医と研修医の交流会も非常に印象深いものでした。2、3年先を歩む専攻医の先生方への進路や日々の悩みを相談したところ、経験に基づいたアドバイスをいただきました。今後の研修について前向きに考えることができました。

この度は専門研修プログラム説明会に参加させていただき、誠にありがとうございました。滋賀県で専攻医を取得するにあたり必要となる病院の診療科ごとの情報を具体的に知ることができ、大変有意義な時間となりました。また、専攻医と研修医の交流会も非常に印象深いものでした。2、3年先を歩む専攻医の先生方への進路や日々の悩みを相談したところ、経験に基づいたアドバイスをいただきました。今後の研修について前向きに考えることができました。

## 令和7年度 滋賀県病院協会 第2回医事研究会に参加して



医療法人恭昭会彦根中央病院 医事課課長代理  
木下 佳代子

今回の医事研究会は、県からの新規委託事業「滋賀県骨折予防研修事業」の一環として、「骨折予防について」のテーマで開催されました。最初に、滋賀県健康医療福祉部医療保険課 国民健康保険係主幹八木様より、「滋賀県における二次骨折予防の取り組み

今回の医事研究会は、県からの新規委託事業「滋賀県骨折予防研修事業」の一環として、「骨折予防について」のテーマで開催されました。最初に、滋賀県健康医療福祉部医療保険課 国民健康保険係主幹八木様より、「滋賀県における二次骨折予防の取り組み

後、医療秘書課を立ち上げられ、病院内のFLSプロジェクトチームに整形外科担当として参画、また日本骨粗鬆症学会に所属で学会発表もされておられます。  
講演は、骨粗鬆症とはどんな病気？から始まり、骨粗鬆症性骨折による身体機能への影響の説明・大腿骨近位部骨折の地域別発生率や各都道府県の骨粗鬆症検診率等、大変興味深い統計結果を紹介いただきました。西宮協立脳神経外科病院では、骨折患者さんに対して急性期の治療に留まらず回復期リハ・在宅支援の介入に始まり追跡調査まで行うリエゾンサービスプロジェクトチームが活動されています。追跡調査はMSW・PT・薬剤師・栄養士等多職種の方も参加され、奥村様所属の医療秘書課の具体的な





令和7年度 滋賀県病院協会  
医療安全対策研修会に参加して



滋賀県立総合病院  
医療安全管理室  
丹野 和美

令和7年11月5日、滋賀県病院協会主催の「医療安全対策研修会（Web開催）」に参加させていただきました。本研修の目的は、医療事故を未然に防止し、医療の安全確保と医療における信頼の確保にあります。研修の講演1は、尾崎恵子先生（滋賀県健康医療福祉部医療政策課主査）による「医療安全相談室の運営および令和6年度相談対応状況について」、講演2は、清水智治先生（滋賀医科大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授）による「インシデント報告とその活用について」の2題の講演が行われました。

令和7年度入退院支援機能強化事業全体研修会報告

「身寄りの無い高齢者や認知症患者への対応について」

～身寄り問題を学んで～



医療法人友仁会 友仁山崎病院  
入退院支援室室長  
杉本 美帆

私は入退院支援業務に従事して10年以上経ちますが、いつでも身寄りの無い方の入退院支援は困難を感じざるを得ません。ひとたび身寄りの無い方が入院されると、緊急連絡先や保証人の問題が出てきます。また退院調整の際には転院や施設入所ができないといった事態も出てきます。これはどここの病院でも同じではないでしょうか。全体研修会のテーマを決める際に、各圏域の入退院支援で困っていることを話し合いました。身寄りの無い方の支援が一番に上げ

られました。そのため、今年度はみだしのテーマに開催させていただきました。まず、滋賀県健康医療福祉部医療福祉推進課の平山係長から、身寄りの無い高齢者の入退院支援に関する行政制度について情報提供をいただきました。続いて「身寄り問題と権利擁護」の演題で特定非営利活動法人ばんじー理事、甲賀・湖南権利擁護支援センター所長である桐高とよみ先生にご講義をいただきました。そして最後に、実際の事例を元にグループワークを行

いました。グループワークでは外国人の事例など難しいテーマだったと思いますが、圏域を超えて多職種でいろいろな意見を出し合っていたと思います。桐高先生の講義の中で、「身寄りが無いことが問題ではなく、身寄りが無いことで必要な医療や福祉サービスが受けられないことが問題」との話が一番印象に残りました。先に述べたように身寄りの無い方が入院するといろいろな問題が出てきます。身寄りがあっても関わらない・関わりが薄い



令和7年度 滋賀県病院協会  
院内感染防止対策WEB研修会を受講して



医療法人マキノ病院  
中央検査科  
臨床検査技師  
長濱 雅

令和7年度院内感染防止対策研修会が令和7年12月2日にWEB形式で開催され、当院からは理事・院長をはじめICチームの職員が参加し、院内で共有すべき多くの知見を得る貴重な機会となりました。

第一部では、和歌山県立医科大学・感染制御学講座の小泉祐介先生より「ポストコロナ時代の感染症と地域連携」についてご講演いただきました。新型コロナウイルスの流行を経て診療体制の見直しが進みましたが、一方、世界的な人流増加や細胞性免疫の低下により、コロナ後に経験した各種ウイルス感染症の大流行や新興・再興感染症の脅威がデータを基に示されました。特に耐性菌の拡大については、和歌山県での実例をもとに問題点と対策が具体的に示され、個々の

てご講演いただきました。新型コロナウイルスの流行を経て診療体制の見直しが進みましたが、一方、世界的な人流増加や細胞性免疫の低下により、コロナ後に経験した各種ウイルス感染症の大流行や新興・再興感染症の脅威がデータを基に示されました。特に耐性菌の拡大については、和歌山県での実例をもとに問題点と対策が具体的に示され、個々の

第二部では、国際医療福祉大学大学院の坂本晴世先生より、「現場で活かす感染対策について」お話し頂きました。手指衛生では、日本の遵守状況や介入研究の成果が紹介され、アルコール製剤の使用では「乾燥まで15秒以上接触する」ことの重要性を学び、早速実践を始めています。CRB SI対策ではカテーテルの種類別の発生頻度や交

換方法の違いについて理解が深まりました。また、地域連携の事例として、コロナ過でのクラスター発生施設への介入やOODAループを活用した小児感染性胃腸炎の集団発生に対して初動対応から収束へ至るまでの臨場感のある内容から多くの学びがありました。両講演を通じて、医療機関の連携や、地域全体で協働しながら感染対策に取り組む体制構築の重要性、必要性を、改めて深く認識する機会となりました。今回の研修を企画・運営いただいた皆様、並びにご講演くださった先生方に深く感謝申し上げます。

受賞おめでとうございます

令和7年度  
滋賀県精神保健福祉協会会長表彰受賞

表彰式…令和8年2月8日(日)

近江八幡市文化会館小ホール

長浜赤十字病院

看護師

柴田 隆嗣氏

長浜赤十字病院

看護師

角川 昌弘氏

令和7年度

滋賀県公衆衛生事業功労者

公益財団法人滋賀県健康づくり財団

理事長表彰受賞

表彰式…令和8年1月15日(木)

滋賀県庁新館7階 大会議室

大津赤十字病院 副院長

兼 第一血液免疫内科部長

兼 感染管理室長

辻 将公氏



滋賀県  
病院協会  
恒例

# 令和7年度 第36回滋賀県病院協会ソフトボール大会

開催日：令和7年11月16日(日)  
会 場：高島市今津総合運動公園

今年度は国スポ・障スポ2025が滋賀県で開催されたことにより、時期をずらしての11月開催となった。10月からの週末は毎週雨模様であったが、この日ばかりは清々しい晴天に恵まれた。まさにソフトボール大会日和の中、第36回となる本大会は23病院で熱い戦いが繰り広げられた。

三木会長の始球式を皮切りに、各グラウンドでは優勝を目指した本気のプレーに大いに沸いた。決勝戦は連覇を狙う滋賀八幡病院対豊郷病院で行われ、見事、豊郷病院が優勝を手にし、籠谷事務部長から優勝旗が手渡された。

本大会開催に向けご尽力賜りました事務長部会等関係者の方々、当日早朝からのライン引きをはじめご準備いただきましたの方々、滋賀県ソフトボール協会審判の皆様、そして参加された選手、応援にかけつけてくださった皆様、本当にありがとうございました。皆様のご協力のもと、大きな怪我もなく無事に終了できましたこと感謝申し上げますとともに厚く御礼申し上げます。

来年も本大会の開催を予定しております。日程が決まり次第、順次お知らせさせていただきますので、多くのチームのご参加をお待ちしております。



優勝  
豐鄉病院



準優勝  
滋賀八幡病院



第三位  
濟生會守山市民病院



# 新年あけましておめでとうございます

令和8年 元旦



外部監事

監事

田中正志

難波江 正 浩

小  
棕  
英  
司

中野顯

濱名優

足立壯一

野崎和彦

武田佳久

日野明彦

高折恭一

白山武司

小川修

过川知之

田中俊宏

五月女  
隆男

仲成幸

松岡俊樹

高橋雅士

青木台亮

石田展弥

南井逢

来見良成

三木亘台

一般社団法人 滋賀県病院協会

理事

副会長

会長